

新宿食支援研究会

食支援サポーター 養成講座（専門職編）

～ソーシャルワークの視点で考える食支援～

(株)モテギ

モテギケアプランニング新宿

社会福祉士・主任介護支援専門員

森岡 真也

今日の視点

★アセスメント

★チームアプローチ

★ネットワーキング



アセスメントとは

- 一般的には環境分野において使用される用語であるが、介護福祉の分野では、介護過程の第一段階において、利用者が何を求めているのか正しく知ること、そしてそれが生活全般の中のどんな状況から生じているか確認すること。 援助活動を行う前に行われる評価。**利用者の問題の分析から援助活動の決定までをさし、**援助活動に先立って行われる一連の手続きをいう。
(介護保険介護福祉用語辞典2005)

⇒単なる事前の情報収集ではないことに留意する。

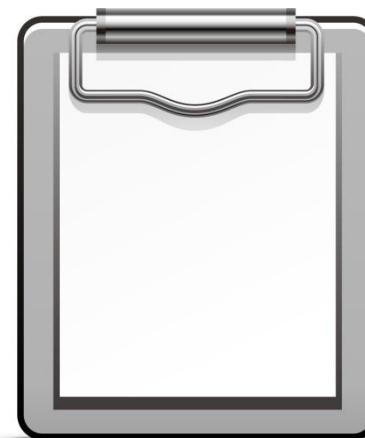
⇒食支援でいうと「見つける」「つなぐ」までが

アセスメント！！



食支援におけるアセスメントで必要な視点

- 健康状態
- 口腔状態、咀嚼・嚥下
- 栄養
- 食べる楽しみ・趣味嗜好
- 生活歴
- 経済面
- 食べる行為
- 食事場所への移動
- 食事姿勢の保持
- 排せつ
- 準備する、作る、片づける行為
- 選ぶ行為
- 食事をする環境(場所、人etc)



アセスメントの領域

★職種によってアセスメントの領域は違う

◎**広範囲**にアセスメントをとる・・・ケアマネジャー
地域包括支援センター職員など

◎**専門分野**のアセスメントをとる・・・
サービス提供責任者、福祉用具専門相談員
デイサービス生活相談員・看護職員など

◎**生活領域**のアセスメントをとる・・・ヘルパー
デイサービス介護職員など

⇒関係者同士の情報共有が大切である



アセスメント時の留意点

- **ストレングス、クライアントへの尊敬、明瞭な記録**がレッテル貼りやステレオタイプ化といった落とし穴にはまるのを防ぐ。

(Parker & Bradley 2008)

★ストレングスモデル

その人が元来持っている「強さ」「力」に着目してそれを引き出し、活用していくケースマネジメントの理論。①個人の性質・性格、②才能・技能③関心・願望、④環境 という4つの類型がある。

(チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ 2008)



アセスメント時の留意点

- 事前情報を収集する
- 本人・家族が困っていること、解決の方法を一緒に考えていく
- スtrenghsに着目する
- 具体的に聞く
- 理由を考えながらアセスメントを行う
- 隠れたニーズにも注目する
- 相手のペースで面接を行う
- 明瞭な記録
- 継続的にアセスメントを行う
- 関係各種との情報共有



食支援におけるチームアプローチ

病院NST

★基本的に、病院内で構成される。固定チームでの設置が可能。

在宅の食支援チーム

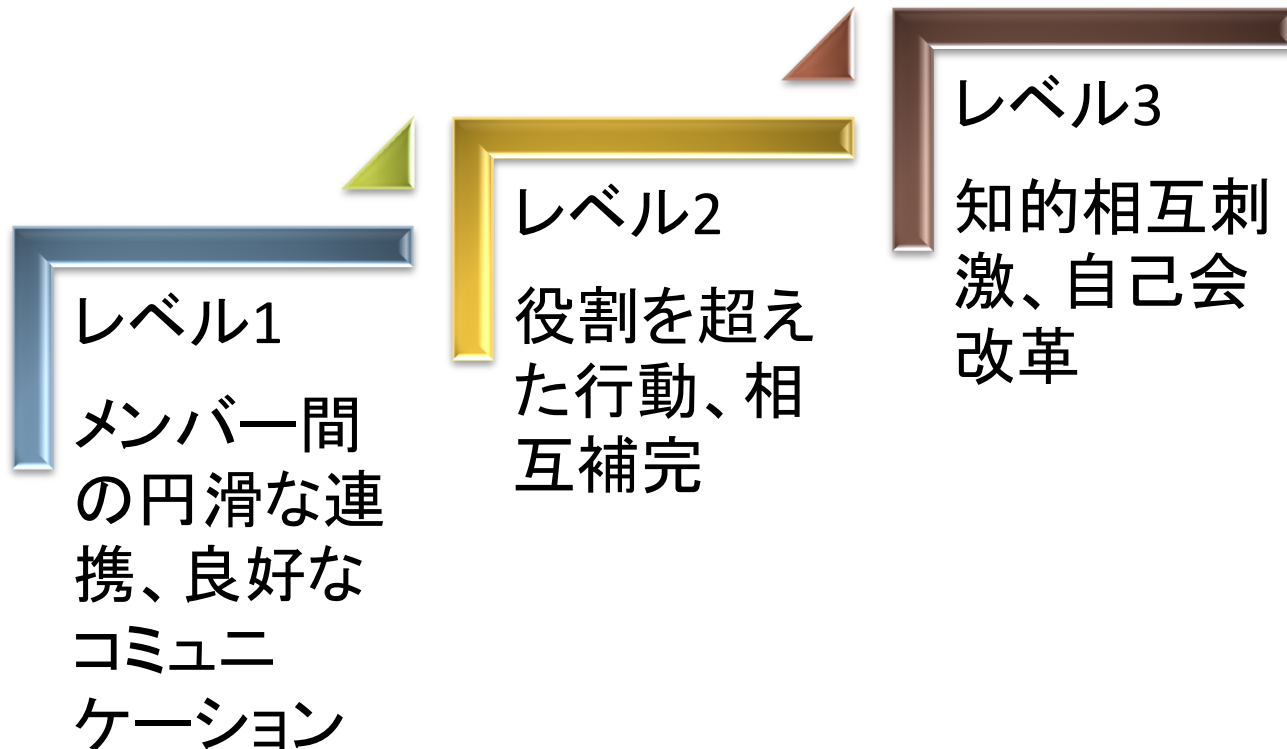
★在宅での療養者の状況で構成するため、チームメンバーが固定できない。



★チームをコーディネートする職種が必要不可欠。相談援助職の役割となることが多い。



チームワークの3つのレベル（古川2004）



在宅におけるチームアプローチで重要なこと

- ①カンファレンス(サービス担当者会議)の重要性
- ②情報共有の方法
- ③サッカーチーム型のチーム構成



ネットワーキングとは

- 様々な医療・福祉サービスとともに、家族や近隣の人々、ボランティア活動なども加えて、地域における生活支援のネットワークを形成しようとするもので、「ソーシャルサポートネットワーク」ともいわれる。

(空閑 2015)

食支援におけるネットワーキングとは？

- ① 地域における様々な医療・福祉サービスの関係者、家族や近隣の人々、ボランティアの方等に「食支援」を理解してもらうこと。
- ② 「食支援」実践のために、地域の社会資源の充実を図ること。



社会資源の開発

(介護支援専門員基本テキストより)

- ★(すでに制度化されているが)不足しているサービスの量を増やすよう自治体等に促す
- ★(適切なサービスがなければ)フォーマルサービスとして開発するよう促す
- ★ 不足しているサービスを代替すべくインフォーマルサービスを開発する

